

《令和4年度》

第5次地域福祉活動計画

(令和4年度～令和8年度)

実施状況報告

社会福祉法人小千谷市社会福祉協議会

〈社会福祉協議会の取り組み〉

第5次地域福祉活動計画 取組項目一覧

基本計画	取組番号	取組項目	実施事業
1. ふれあい・支えあう地域づくり	1	福祉会でつながる地域づくりの推進	福祉会・いきいきサロン活動の育成・支援
			福祉会・いきいきサロンの設立支援
			地域共生の居場所づくり支援
	2	お互いさまの支えあいを推進	生活支援サービスあちこたネットおぢやの実施
			生活支援サポーター養成講座の開催
			第2層生活支援コーディネーターとの連携
2. いたわりとやさしさの心をもつ人づくり	3	未来へつなぐボランティアの育成	ボランティアセンター機能の充実
			ふくし・ボランティアかれっじの開催
			福祉ふれあいフェスティバルの開催
	4	ふくしの心を育むために実施するもの	社会福祉普及校事業の実施
			福祉・ボランティア情報の充実、拡大
			ふくし出前講座の開催（新規）
3. 安心して暮らすためのネットワークづくり	5	相談から①だんの②らしを③あわせにつなぐ	ふれあい福祉センター相談所の運営
			生活福祉資金等貸付事業の実施
			日常生活自立支援事業の実施
			法人後見事業の実施
	6	見守り・つながりあう関係づくりの推進	配食サービス事業の実施
			男性料理教室の実施
			救急医療情報キット配付事業の実施
			おぢや子ども笑顔プロジェクトの実施
			こども食堂の実施

* 取組結果についての評価の記載について

◎ 計画どおり ○ ほぼ計画どおり △ あまり進まなかった × 進まなかった

第5次地域福祉活動計画 実施状況

(令和4年度)

取組項目1. 福祉会でつながる地域づくりの推進	
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉会のない地域や町内に懇談会や体験講座を開催し、地域福祉に対する理解が深まるよう働きかけます。 ・既存の福祉会やいきいきサロンには、研修会や情報交換の場を設け、ニーズに合わせた住民主体の活動ができるよう支援します。 ・福祉会と町内会、老人クラブの連携強化に向け支援します。 ・いきいきサロンに地域のお茶の間として対象者を広げるよう働きかけをします。 ・地域のつながりを必要とする子育て中の方や障がいのある方、ひきこもりの方、生きづらさを抱える方など誰でも、共に過ごせる地域の居場所づくりを支援します。

年次計画					
実施事業	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
福祉会・いきいきサロン活動の育成・支援	継続				
福祉会・いきいきサロンの設立支援	継続				
地域共生の居場所づくり支援（新規）	検討・講座開催		居場所づくり		

進捗状況（評価指標等）		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
福祉会設立数 (R3年度基準値：29か所)	目標値	30	31	32	33	34
	実績値	29				
いきいきサロン開設数 (R3年度基準値：38か所)	目標値	39	40	41	42	43
	実績値	39				
地域共生の居場所開設数 (R3年度基準値：—)	目標値	—	—	1	1	2
	実績値	—				

令和4年度の取組結果		評価
福祉会・いきいきサロン活動の育成・支援	6月・2月福祉会連絡協議会打合せ会開催。研修会として従来の夏季研修会（8月）、合同研修会（3月）に加え、今年度より福祉推進員研修会を開催（10月）。また合同研修会後にサロン研修会も開催、役員のスキルアップや慰労を図る。福祉会活動費助成29団体。	◎
福祉会・いきいきサロンの設立支援	以前からサロンや見守り活動を実施していた船岡町が、R4年11月1日に船岡福祉会を設立。しかし、真人北部福祉会が組織体制の維持困難によりR3年度末に解散し設立数は変わらず。サロンの設立については令和3年に発足した川井地域福祉会が7月から開始、39か所となった。	○
地域共生の居場所づくり支援（新規）	地域共生の居場所について関心を向けてもらうため、6月30日「地域共生の居場所づくり」講演会、11月1日「みんなの居場所を考える」講演会、11月14日「行ってみよう、みんなの居場所」新潟市内2か所の視察研修を実施。参加者アンケートを実施。	○

見直し・改善・今後の進め方
<ul style="list-style-type: none"> ・福祉会については、活動費の助成や各種研修会の開催、アウトリーチによる意見交換により活動を支援します。また福祉会設立・運営マニュアルを作成し、福祉会未設置地域にマニュアルを活用しながら町内会長や民生委員児童委員・老人クラブ等関係者に働きかけ、懇談会や体験講座を計画的に開催し福祉会の設立を支援していきます。 ・既存のいきいきサロンには、幅広い年代の方が集える場作りに向け引き続き働きかけをします。 ・地域共生の居場所づくりに向けては、次年度も引き続き講座や視察を通じ意識と気運の醸成を図っていきます。

第5次地域福祉活動計画 実施状況

(令和4年度)

取組項目2. お互いさまの支えあいを推進

実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者や障がい者の日常生活ニーズを地域で支えるしくみである「あちこたネットおぢや」について普及啓発し、担い手（生活支援サポーター）を増やし、多くの利用ニーズに応えるしくみとして強化します。 ・「あちこたネットおぢや」の担い手を継続的に確保するため、養成講座を開催するとともに、サポーター同士が情報共有できる機会を設けます。 ・第2層生活支援コーディネーターと連携し、地域住民の困りごとの声やニーズを把握し、生活支援体制の整備・拡充を図ります。
------	--

年次計画

実施事業	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
生活支援サービスあちこたネットおぢやの実施	継続				
生活支援サポーター養成講座の開催	継続				
第2層生活支援コーディネーターとの連携	継続				

進捗状況（評価指標等）		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
生活支援サポーター養成講座新規修了者数/ 新規登録者数（R3年度基準値：4人/3人）	目標値	6/4	8/5	10/7	12/9	15/12
	実績値	6/4				
あちこたネットおぢやサポーター登録 数（R3年度基準値：66人）	目標値	68	70	72	74	75
	実績値	79				
あちこたネットおぢや利用会員数 （R3年度基準値：20人）	目標値	23	25	28	32	35
	実績値	40				

令和4年度の取組結果		評価
生活支援サービスあちこたネットおぢやの実施	サポーター登録会員79名。実利用者40名。延活動回数853件。新規相談44件。延相談174件。継続相談及び調整104件。あちこたネット開始9年目で初めてサポーター連絡会を開催。サポーターから意見をいただき利用対象者や利用料等の見直しを行う。	◎
生活支援サポーター養成講座の開催	3回コースにて開催（第1回：6月24日「あちこたネットおぢやについて」、第2回：7月6日「高齢者と障がい者の理解」「傾聴講座」、第3回：7月22日「生活支援サポーターの活動を知ろう」）。受講延人数21名。うち6名に修了者証交付。新規サポーターとして4名の登録あり。	◎
第2層生活支援コーディネーターとの連携	第2層SCとの事務局と会議（24回）および第1層協議体メンバーと情報交換会（12回）の開催。第2層SCの活動支援（38件）、地域に不足するサービス及び支援の創出に向けた研修や連携（13件）、サービス及び担い手の養成（5件）、地域の高齢者等の支援ニーズと支援者との活動のマッチング（9件）を連携して実施。	○

見直し・改善・今後の進め方

<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き生活支援サポーター養成講座やサポーター連絡会の開催により人材育成に取り組みます。 ・生活支援コーディネーターと連携し、地域ごとの福祉課題を地域の中で解決できるよう、生活支援サービスの体制整備を進めます。

第5次地域福祉活動計画 実施状況

(令和4年度)

取組項目3. 未来へつなぐボランティアの育成

実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアセンターでは、総合相談窓口として市民のボランティア活動を支援しています。今後もボランティアグループの協力をいただき、各種講座を開催します。また、ボランティア連絡協議会の支援を継続します。 ・ふくし・ボランティアかれっじを開催し、基礎科目（入門講座・傾聴講座）、選択科目（手話・要約筆記・音声訳・点訳・ふれEye ボランティアスクール等）を受講後、興味のあるボランティアグループを見学・体験し、ボランティア活動に参加しやすくします。 ・福祉団体やボランティアグループの活動を市民にPRする機会として、福祉ふれあいフェスティバルを開催します。
------	--

年次計画

実施事業	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
ボランティアセンター機能の充実	継続				
ふくし・ボランティアかれっじの開催	継続				
福祉ふれあいフェスティバルの開催	継続				

進捗状況（評価指標等）

		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
ボランティア連絡協議会加盟グループ数（R3年度基準値：41グループ）	目標値	42	42	43	44	45
	実績値	44				
ふくし・ボランティアかれっじ受講者延べ人数（R3年度基準値：250人）	目標値	270	290	310	330	350
	実績値	196				
福祉ふれあいフェスティバル参集者数（R3年度基準値：—）	目標値	800	900	1,000	1,100	1,200
	実績値	510				

令和4年度の取組結果

		評価
ボランティアセンター機能の充実	ボランティア連絡協議会（加盟44団体604名、他個人会員4名）の活動支援として、該当する31団体へ助成金交付。また連絡協議会運営委員会（4回）の開催やボランティアふれあい交流会を実施（12月）。おぢやしごと未来塾に社協として出展、市内の中学生に社協ボランティアセンターを周知。24時間テレビチャリティ・キャンペーン協力（8月27～28日）市内高校生10名が参加協力、高校生ボランティアの育成に努める。	◎
ふくし・ボランティアかれっじの開催	従来の講座の他、新たな講座として子どもたちの夏休み期間にボランティアや福祉に触れるきっかけづくりに向け、令和4年7月から8月にかけて『夏！ボラ体験プログラム』を開催。「手話を学ぼう・楽しく話そう」「配食手伝い隊」「ふれEyeフェア」「親子でおもちゃ作り」「学童保育手伝い隊」のプログラムに多くの子ども・親子で参加いただく。	○
福祉ふれあいフェスティバルの開催	コロナ禍のため、感染対策をしながら4年ぶりに令和4年10月8日（土）に社協単独開催。ボランティアグループによる活動体験コーナーや活動ポスターの掲示、立木早絵さんトーク&コンサート、福祉バザーや縁日コーナーに多くの親子連れが参加、福祉やボランティア活動についてふれていただく。	○

見直し・改善・今後の進め方

<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア連絡協議会加盟グループは増加傾向、若いグループも増えてきている一方、会員の固定化・高齢化といった課題を抱えるグループもみられることから、ボランティア人材確保に向け「ふくしボランティアかれっじ」の開催、ボランティア団体同士の横のつながり作りの支援、ボランティアセンターのPR方法の見直し等を行います。 ・「福祉ふれあいフェスティバル」に多くの方から参加していただく企画を検討します。
--

第5次地域福祉活動計画 実施状況

(令和4年度)

取組項目4. ふくしの心を育むために実施するもの

実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・市内の全小・中・高等学校・総合支援学校を社会福祉普及校に指定し、活動のための助成金交付や福祉体験学習の支援を継続します。 ・福祉学習の幅が広がるよう、福祉学習メニュー表の内容の追加や見直しを行います。 ・社協情報発信のため、毎月1回「社協だより」を全戸配布、ホームページの記事をリアルタイムに更新します。SNSの種類を増やし、福祉・ボランティア情報を幅広い年代層に発信します。 ・社協だよりは随時スタイルを見直し、幅広い世代の方に読んでいただくための工夫をしながら発行します。 ・学校・企業・事業所・町内会等へふくし出前講座を開催し、地域福祉やボランティアについて理解促進を図ります。
------	---

年次計画

実施事業	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
社会福祉普及校事業の実施	継続				
福祉・ボランティア情報の充実・拡大	継続				
ふくし出前講座の開催（新規）	検討	開催 PR・実施			

進捗状況（評価指標等）

		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
福祉体験学習の実施回数・参加人数 (R3年度基準値：20回/506人)	目標値	21/506	22/515	23/525	24/540	25/550
	実績値	28/1,061				
広報手段の種類（SNS含む） (R3年度基準値：3種)	目標値	3	3	3	3	3
	実績値	3				
企業・事業所等へのふくし出前講座回数 (R3年度基準値：—)	目標値	1	1	1	2	3
	実績値	0				

令和4年度の取組結果

		評価
社会福祉普及校事業の実施	福祉普及校担当者打合せ会（5月、14名参加）。社会福祉普及校助成16校。小中高等学校等からの依頼により各学校へ出向き、車椅子、高齢者体験、手話・点字学習等の支援。福祉体験学習実施回数は28回、14学年より延べ1,061名の児童・生徒が参加。	◎
福祉・ボランティア情報の充実・拡大	社協だより（毎月発行）、ホームページ、SNS（Facebook）による情報発信は継続。社協ホームページに音声訳による社協だよりを掲載するための調査を実施、音声訳化に向け実施団体と調整中。	○
ふくし出前講座の開催（新規）	令和4年度からの実施に向け、令和3年度末に企業向けボランティアだより（毎年1回発行：160社に送付）にてふくし出前講座についての案内を掲載。今年度講座の依頼0件。	△

見直し・改善・今後の進め方

<ul style="list-style-type: none"> ・福祉体験学習については、より多くの学校での実施に結びつくよう、ボランティア団体や関係機関と連携しながら様々な福祉教育メニューを検討、福祉普及校担当者打合せ会や福祉学習メニュー表にて提示していきます。 ・福祉・ボランティア情報については、社協だよりやSNS、社協HPの随時更新を継続することで発信していきます。社協だよりの音声訳化については引き続き実施団体と調整の上、音声化を進めていきます。 ・ふくし出前講座についてはボランティアだよりによる周知の他、出前講座メニューの一覧を作成し、ボランティアだより配布時に同封する等、企業に対するPR方法を検討します。

第5次地域福祉活動計画 実施状況

(令和4年度)

取組項目5. 相談から◎だんの◎らしを○あわせにつなぐ

実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・気軽に相談できる窓口として、ふれあい福祉センター相談所の運営を継続します。 ・資金貸付事業は、生活困窮者自立支援等と関連して、市担当課や担当民生委員児童委員と連携を図りながら、継続して支援します。 ・日常生活自立支援事業を利用することで住み慣れた地域で暮らせるよう支援します。 ・法人として成年後見人等を受任し、判断能力が十分でない方の権利・生活を守るための権利擁護を支援します。
------	--

年次計画

実施事業	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
ふれあい福祉センター相談所の運営	継続				
生活福祉資金等貸付事業の実施	継続				
日常生活自立支援事業の実施	継続				
法人後見事業の実施	継続				

進捗状況（評価指標等）		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
ふれあい福祉センター相談所 相談件数 (R3年度基準値：130件)	目標値	130	135	140	145	150
	実績値	102				
生活福祉資金貸付事業相談延べ件数/貸付件数 (R3年度基準値：385件/86件)	目標値	120/20	40/5	40/5	40/5	40/5
	実績値	155/20				
たすけあい資金貸付事業相談延べ件数/貸付件数 (R3年度基準値：20件/0件)	目標値	20/1	20/1	20/1	20/2	20/2
	実績値	16/0				
日常生活自立支援事業相談延べ件数/利用者数 (R3年度基準値：520件/17人)	目標値	520/17	525/18	530/20	535/21	540/22
	実績値	749/22				
法人後見事業相談件数/利用件数 (R3年度基準値：2件/2件)	目標値	3/3	4/4	4/4	5/5	5/5
	実績値	1/4				

令和4年度の取組結果

		評価
ふれあい福祉センター相談所の運営	心配ごと相談13件、法律相談83件、年金相談6件。 8月、12月相談員研修会（8月、12月）、相談員ケース検討会（2回）	○
生活福祉資金等貸付事業の実施	福祉資金（緊急小口資金・総合支援資金の特例貸付および教育支援資金）新規相談者35名、延相談件数155件、申請20件、貸付20件。たすけあい資金は新規相談者5名、延相談件数16件も貸付実績はなし。 生活困窮者自立支援担当部署との連携会議に出席。	○
日常生活自立支援事業の実施	新規相談件数22件、受付9件、契約10件、訪問による相談件数749件。 支援計画に基づく生活支援員による援助利用者21名、延230回。 専門員、生活支援員対象の研修会に参加（5回）。	◎
法人後見事業の実施	後見支援4件、新規相談件数1件、受付1件、受任1件。 法人後見事業運営委員会の開催（9月、2月）。 成年後見制度に関する各種研修会、意見交換会参加（6回）。	○

見直し・改善・今後の進め方

<ul style="list-style-type: none"> ・ふれあい福祉センター相談所については、社協だより等で周知に努め、市民の相談窓口として引き続き運営していきます。 ・権利擁護事業について支援ニーズは年々増加傾向です。特に日常生活自立支援事業では、実働できる生活支援員の減少によりひとり当たりの負担が増していることから、生活支援員養成講座の再開により新規支援者を確保し、より多くの支援ニーズに対応できるよう努めていきます。
--

第5次地域福祉活動計画 実施状況

(令和4年度)

取組項目6. 見守り・つながりあう関係づくりの推進

実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ひとり暮らし高齢者の見守りや安否確認のため、ボランティアによる配食サービス事業を継続します。 男性料理教室を継続し、食生活の自立や生きがい・仲間づくりを支援します 緊急時に適切な医療活動につながることで安心して在宅生活が送れるよう、救急医療情報キット配付事業を継続します。 おぢや子ども笑顔プロジェクトの内容を検討し、ひとり親世帯が必要な支援を実施します。また、子どもの食と居場所を支援するため「こども食堂」について検討します。
------	---

年次計画

実施事業	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
配食サービス事業の実施	継続				
男性料理教室の実施	継続				
救急医療情報キット配布事業の実施	継続				
おぢや子ども笑顔プロジェクトの実施	継続				
子ども食堂の実施	調査・検討	継続			

進捗状況（評価指標等）		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
配食サービス利用者数 (R3年度基準値：281人)	目標値	284	288	292	296	300
	実績値	290				
男性料理教室参加者数 (R3年度基準値：146人)	目標値	155	161	167	173	180
	実績値	122				
救急医療キット配布数 (R3年度基準値：121件)	目標値	127	133	139	145	150
	実績値	131				
おぢや子ども笑顔プロジェクト利用者数 (R3年度基準値：22件)	目標値	22	27	32	37	40
	実績値	61				
子ども食堂の実施 (R3年度基準値：—)	目標値	—	—	1	1	1
	実績値	—				

令和4年度の取組結果

		評価
配食サービス事業の実施	5地区（西小千谷、東小千谷、東山、片貝、岩沢）にて月2回、70歳以上のひとり暮らし及び高齢者のみの世帯で希望する290名に、見守りや安否確認を目的に昼食弁当を配達。また年末には「おせち料理」を配達。調理および配達はボランティアによるもの。	◎
男性料理教室の実施	65才以上の男性を対象に毎月第2火曜日開催。会員は29名、参加者延122人。12月開催日が荒天のため中止となったため年11回開催となっている。	○
救急医療情報キット配布事業の実施	社協ホームページ等による事業の周知を図る。消防本部と情報共有による連携。10件配布)。また地域救急医療に関する体制会議にて関係機関への周知により事業浸透を図る	◎
おぢや子ども笑顔プロジェクトの実施	ひとり親世帯の小学生以下の子どもを対象、お正月福袋（フードバンクにご寄付いただいた食料およびお菓子の詰め合わせやこども商品券）を44世帯61名の子どもに配布。	◎
子ども食堂の実施	基本計画1-(1)にある地域共生の居場所づくり支援での講座や視察を通じ、様々な形のある居場所づくりのひとつとして子ども食堂（地域食堂）の開催を検討。	△

見直し・改善・今後の進め方

<ul style="list-style-type: none"> 救急医療情報キット配布事業については、消防本部救急隊と連携を継続するとともに、火災予防見守り安心事業やあけびの会事業、配食サービス事業時にキットの紹介や確認（キット内医療情報の記入項目の随時更新の周知等）等行います。 おぢや子ども笑顔プロジェクトを通じ、申請のあった世帯に定期的に生活に役立つ情報や集いの場の提供等、つながりを絶やさない工夫をしていきます。 子ども食堂については、引き続き他市町村の状況を情報収集し、実施に向けた検討を図ります。
--

〈地域ごとの取り組み〉

令和5年6月30日～7月10日にかけて市内5地域において協力員懇談会を開催しました。参加者は、町内会長、民生委員児童委員・主任児童員、市議会議員、社協理事・監事・評議員の皆様です。

当日は、社協事業説明後、地域共生の居場所づくりに向けた社協の取り組みとして、デイサービスセンターみなみで実施している共生型サービスと地域福祉係が進める共生の居場所づくりについて紹介しました。後半は第5次地域福祉活動計画の「地域ごとの取り組み」について、参加者アンケートを実施、ご意見や評価をいただきました。

地域福祉活動計画が皆様の中にどれだけ浸透しているか、計画した取り組み項目に対する地域の実施状況について、ご自身でどう感じているかA～Dで評価していただきました。

結果については、次ページ以降に地域ごとにまとめましたのでご覧ください。第5次地域福祉活動計画について、参加された方のうち『内容も知っている』方は26%、『計画があることは知っている』方は53%、『初めて知った』方は21%でした。

令和4年6月に計画書の概要版を全戸配布しましたが、より広く地域の方に知っていただくため、社協だよりやホームページにおいて地域福祉活動計画の評価を報告し、地域の集まりの場に伺った際、PRし周知を図っていきます。

6/30 片貝地域



7/3 千田地域



7/5 南部地域



7/6 西小千谷地域



7/10 東小千谷・東山地域



評価の見方（4段階評価） A：実施されている B：まあまあ実施されている C：あまり実施されていない D：実施されていない

西小千谷地域 西小千谷地区・城川地区・吉谷地区・山辺地区の一部(山本・西中・池ヶ原・古田・池中新田・上片貝)

取組項目1. 住民全員が参加し、つながりある地域をつくろう		評価				
		A	B	C	D	
地域では	福祉会のない地域や町内は、福祉会設置に向けた取り組みをします	11	11	16	13	
	既存組織や活動を通じ、若手の参加を呼びかけ交流の機会を確保します	4	22	30	6	
個人では	福祉会活動を理解します	14	27	18	4	
	「向こう三軒両隣」を意識し、近隣同士の声掛け、誘い合い、見守りをします	16	24	16	6	

《自由記載より》・若い方を巻き込んでとは思うが、今の若い人は忙しく人数も少なく参加はなかなか厳しい・コロナ禍を経て様々な町内活動やイベントが復活する中、今後戦略的に取り組む必要あり・地域で顔を合わせる機会が減っており、名前すらわからない人が増えてきた。・『向こう三軒両隣』の意識をどうやって持ってもらえるか

取組項目 2. 子どもから高齢者まで地域活動に参画し、活躍できる地域づくりをしよう		評価				
		A	B	C	D	
地域では	学校、PTA と協力し、長期休み中の生徒に福祉活動へ参加してもらい、次代の担い手の育成をします	9	21	23	14	
	多世代の共同作業の中でリーダーや若い世代の担い手を育てていきます	5	16	35	8	
個人では	近所や友人と誘い合って参加します	8	21	28	7	
	町内の活動に積極的に参加します	26	28	11	0	

《自由記載より》・子どもは塾やスポーツ活動など地域外の活動も増えており、町内から距離を置く子も増えている・地域活動がないので参加機会がない。活性化もない・役員のなり手がおらず今後のリーダー養成が課題。・地域活動の参加者やリーダーが固定化されている。そのため次世代の活動が難しくなる

取組項目 3. 地域の中で福祉活動を充実させよう		評価				
		A	B	C	D	
地域では	住民が地域の資源を知ることができるよう、地域内の組織や仕組みを周知します	9	28	24	2	
	役割を持てる場や仕組みづくりに取り組みます	5	26	28	2	
個人では	地域の生活課題に関心を持ち、解決に向け考え行動します	14	24	23	2	
	「ちょっとした手助け」を実行します	15	28	20	2	
	集いの場に参加します	24	25	15	1	

《自由記載より》・コロナ禍により 3 年間ほとんど何もできなかったのは事実。今後どのように進めるかが重要・『地域の生活課題』にどうやって関心を持ってもらえるかが課題・取り組みの重要性を感じるも、これからの課題。

《評価と社協の取組》それぞれの取組項目において、地域での実施状況についての評価に対し個人としては比較的实施できていると評価する方が多い結果となっています。この結果を踏まえ、社協として福祉会のない地域や町内には福祉会設置に向け町内への説明やモデル地区の設置等による働きかけを、福祉会のある地域については福祉会を通じた地域福祉活動の支援を継続することで、個人の取組を地域全体の取組として結び付けていけるような体制づくりに取り組んでいきたいと考えます。

東小千谷・東山地域 東小千谷地区・東山地区

取組項目1. 地域の中でいろんな世代の方と関わり、つながりをつくろう		評価				
		A	B	C	D	
地域では	伝統行事など、子どもから若い世代が地域に愛着を感じられる活動を行います	11	16	6	1	
	ひとり暮らしの方が地域から孤立しないよう、地域全体で見守ります	5	26	3	0	
個人では	地域のことを知るようにします	13	18	3	0	
	子どもから高齢者まで欠かさずあいさつをします	15	16	3	0	
	常日頃より顔を合わせて話をする事で、近所の方との関係づくりをします	12	20	2	0	

《自由記載より》・子どもがあまりに少なく接する機会が少ない・多世代の交流が難しい。高齢者と子どもが交流できる場作りが必要・近所の方との関係作り。家の外に出ている方が少ない・伝統行事参加は子どもにとって大切な思い出となるため、少しでも参加につながるとよい・活気ある町内活動には魅力ある事業を計画しなくてはならない

取組項目 2. じぶんの地域の福祉や福祉活動を知り、できることから参加してみよう		評価				
		A	B	C	D	
地域では	福祉活動、地域の支えあい活動の理解促進に向け、多くの住民に周知します	9	17	7	1	
	青年会や万灯会への支援や連携により、新たな担い手を発掘し、育成します	4	17	9	3	
個人では	地域の福祉や支えあい活動などの福祉活動について理解します	13	15	6	2	
	町内行事や地域活動に誘い合い、参加します	14	18	1	1	

《自由記載より》・子育て世代や仕事中心の人など、忙しいため町内行事に参加できない。そのため行事の継承が難しくなっている・地域での活動PRがまだまだ。自分も声を上げ、多くの住民に周知したい。町内の事業などへの意見が言える場や機会が少ない・自分のことで精一杯で余裕がない・リーダーとなる方がいないように感じる。順番で仕方なく・・・という感じが多い

取組項目 3. 困ったときは相談でき、助けあえる地域にしよう		評価				
		A	B	C	D	
地域では	福祉や町内会、支えあい組織による見守りや支援体制を確保します	11	16	4	1	
	困りごとがあったら、町内会や福祉会、民生委員が連携し関連組織へつなげます	12	21	1	0	
個人では	じぶんでできそうなことは、手助けをします	14	18	2	0	
	困っている(いそうな)人がいたら声を掛け、困りごとを聞きます	11	15	8	0	

《自由記載より》・支え合えるような人間関係の構築が大切・プライバシー保護が優先され本当の気持ちや要望が把握しづらい。困りごとがあってもそれ以上家庭に入り込めない。どこまで手助けしていいかが難しい・限られた時間の中で何をどうしていくか手探り中

《評価と社協の取組》地域、個人において各種取組が実施できていると評価する方が多い中、少子化による若年層の活動参加や世代交代についての意見が多数挙がりました。新たな担い手の育成をはかることにより、今後の地域福祉活動の継続につながっていきます。令和5年度の地域福祉活動助成交付金事業についても東小千谷地域の各地域における申請数も増え、地域活動のさらなる活発化が期待されることから、当事業のさらなる周知を図り地域活動の開催を促進していけるようにしていきたいと考えます。

千田地域 千田地区・五辺高梨地区

取組項目1. 地域活動参加を通じ、住民同士のつながりづくりをしよう		評価				
		A	B	C	D	
地域では	地域行事や集いの場など、子どもから高齢者まで集える場づくりをします	1	3	6	0	
	様々な世代の方が交流できる場をつくります	0	2	7	1	
	既存の地域行事の中で若手が役割を持てるようにします	0	7	3	0	
個人では	地域行事に積極的に参加し、いろんな世代と交流する機会を持ちます	5	3	2	0	
	平日頃より近隣や地域の人同士が気軽に話せる関係を作ります	3	4	3	0	

《自由記載より》・前から住んでいる人と新しく来た人との交流の場がない ・各家の屋号、顔、若手の名前などが一致しない
 ・地域行事の参加が義務と感じる ・地域に子どもが少なく、子ども達を取り込む場が設定しづらい ・高齢者が多く参加が困難
 ・コロナ禍で全員参加ができない状況

取組項目2. 福祉活動や地域の福祉活動に参加してみよう		評価				
		A	B	C	D	
地域では	福祉会、支えあい活動の内容を周知し、若い世代への理解促進を図ります	0	4	6	0	
	若手主体の組織との連携、伝統芸能行事等を通じ若い人と共に活動する機会をつくります	0	4	6	0	
	役割や健康増進活動により高齢になっても役割を持てるような取り組みをします	0	5	5	0	
個人では	福祉活動について学び、できるところから参加します	1	6	3	0	
	介護予防、健康寿命増進に向け取り組んでいきます	0	3	7	0	

《自由記載より》・公民館活動や保険推進員活動などと合同で何か取り組む内容や機会ができればいい。
 ・若手主体の組織が少なく連携が難しい ・伝統芸能について検討中 ・年を取ると参加が億劫になる

取組項目3. お互いに支えあい、助けあえる地域にしよう		評価				
		A	B	C	D	
地域では	地域の中で助けあい、支えあい活動を組織化し、実施します	3	4	3	0	
	地域の中での支えあいの必要性を住民に周知します	1	7	2	0	
個人では	できる範囲で活動に参加します	4	3	3	0	
	困っている人には手を貸します	2	6	2	0	
	困ったときは個人で悩まず、町内に相談します	3	4	2	0	

《自由記載より》・困ったときに支えてくれる身内がいる人はいいが、そうでない人をどのようにして把握していくか ・ようやく町内のことがわかってきた。今後様々な相談に関わっていきたい ・町内での助けあいの仕組みもあり、町民の意識も高いと思う

《評価と社協の取組》地域、あるいは個人において支えあい、助けあえているという評価である一方、地域福祉活動への参加や、活動参加を通じたつながり作りについては実施されていないという評価が多い結果となりました。今後福祉活動支援や生活支援コーディネーターとの連携により個人の活動を地域福祉活動につなげていくこと、あるいは地域福祉活動助成金交付事業のさらなる周知により、地域イベントの開催を通じて若い世代の地域活動参加につなげられるよう取り組んでいきたいと考えます。

南部地域 川井地区・岩沢地区・真人地区・山辺地区の一部(上坪野・細島・塩殿・卯ノ木)

取組項目1. 今あるつながりを保ちながら、新たなつながりを育てていこう		評価				
		A	B	C	D	
地域では	地域内で誘い合い、地域の集いに大勢の方が参加できるように住民に働きかけます	6	17	10	0	<p>D 4% A 29% C 20% B 47%</p>
	若い世代に地域行事の中で役割を持ってもらい、楽しみながら「自分の地域」を身近に感じてもらう機会を設けます	4	12	12	5	
	ひとり暮らしの方には隣近で気にかけて、声掛けをすることで地域から孤立する方を出さないようにします	10	18	5	0	
個人では	近所同士のあいさつ、ちょっとした声掛けや誘い合いを続けます	18	12	3	1	
	地域行事に積極的に参加し、いろんな世代と交流する機会を持ちます	10	18	4	1	
	平日頃より近隣や地域の人同士が気軽に話せる関係を持ちます	11	17	5	1	

《自由記載より》・高齢者のひとり暮らしが今後さらに進んでいくことが現実的な中で、将来に不安がある・コロナ禍もあり地域住民の集まる行事、祭り事の開催が困難・若い世代が町内から出てしまい人がいなくなっている・若い世代が積極的に出てくる意識の形成が必要・町内会など一人一人の役割や負担が多すぎる。「若い世代」のためにも整理が必要

取組項目 2. 地域のみinnで地域福祉活動に取り組んでいこう		評価				
		A	B	C	D	
地域では	役割づくりや活動機会の確保により、高齢でも達者でいられるようにします	4	17	10	1	<p>D 10% A 16% C 38% B 36%</p>
	地域福祉活動を通じ、子どもから高齢者まで様々な世代が役割を持てるようにします	2	9	18	4	
個人では	健康寿命の増進を意識し、介護予防や役割づくりに務めます	8	10	11	3	
	自分でできる福祉活動について考え、積極的に参加します	7	11	10	5	

《自由記載より》・地域に子どもがいない現状でどこまで、いつまでやれるのかという不安・人ありきではなく、組織、仕組、事業化を考える段階と感じる・今プライバシーが厳しく町内の家族構成がわからない。

取組項目 3. 地域や近隣の助けあいを続けていこう		評価				
		A	B	C	D	
地域では	今ある組織や仕組みを活用して、近隣住民で困り事が解決できる仕組みをつくります	6	14	12	1	<p>D 4% A 29% C 27% B 40%</p>
	困った時に支援の受け皿となる機関につなげます	8	15	9	1	
個人では	支援が必要な方に対し、自分ができると見守りや支援を行います	11	13	8	1	
	困ったときは近所の人や地域の人に相談します	13	11	7	2	

《自由記載より》・福祉活動の基礎である人材確保に困難があるようだ。町内役員や関連団体代表者が登録はしているものの、社員が多く活動時間や内容が制限されている・直近ではまだ問題になっていないが、今後10年後には大きな対応が必要になってくる・どこまで踏み込んでいいのかわからないところ・自分の事で手一杯で、そんな余裕がないように感じる

《評価と社協の取組》《取組項目 1.3》より個人としてのつながりが強固であるという結果がある一方、少子化による今後の懸念も意見として多数挙がっています。南部地域の各福祉社会活動、生活支援コーディネーターとの連携により数年

先を見据えた仕組みづくりに向け取り組んでいきたいと考えます。

片貝地域 片貝地区

取組項目1. 地域内の一体感を強みに、子どもから高齢者までつながっていきこう		評価				
		A	B	C	D	
地域では	地域ぐるみでひとり暮らし高齢者や高齢世帯の把握、見守りをしていきます	8	14	2	1	
	福祉会・町内会・民生委員が連携しながらひとり暮らし高齢者などの把握をし、地域内での見守り体制の構築を図ります	6	13	6	0	
個人では	何気ない言葉がけ、あいさつ、交流の場へお誘いをしていきます	7	12	6	0	
	関係者や地域内で情報共有をできるよう、ちょっとしたことでも情報提供していきます	4	12	9	0	
<p>《自由記載より》・個人・プライバシーの壁を感じる。特に子どもに関してはどこまで踏み込んで良いかわからない ・これまで率先して仲立ちしてくれていたベテラン世代が少しずつ引退している。うまくバトンタッチできれば</p>						

取組項目 2. 地域にある福祉活動組織の活動を知り、参加しよう		評価				
		A	B	C	D	
地域では	福祉会活動・ささえ～る片貝の活動を周知していきます	4	13	6	0	
	様々な地域活動の中で、若手の参加を促す気運、仕組みをつくっていきます	1	5	17	2	
個人では	福祉会やささえ～る片貝がどんな活動をしているか見聞かし、必要な方に情報提供します	4	13	6	1	
	自分ができることは協力します	7	13	5	0	
	若い世代に関心を持ってもらえるよう声掛けし、活動参加を促します	2	10	10	3	
<p>《自由記載より》・必要性は感じるも時間的余裕がない ・若い世代は子どもや仕事等日常生活が忙しく、福祉活動まで考えている時間がないと思われる ・若い世代の姿が見えづらく、効果的な周知にはつながっていないと感じる。意欲的な若者もいないわけではないため、情報共有がうまくできるとよい</p>						

取組項目 3. 地域住民同士で助けあい、支えあえる地域にしよう		評価				
		A	B	C	D	
地域では	地域の各組織のつながりを強みに、横のつながりを強化し福祉課題解決に取り組んでいきます	4	13	7	1	
個人では	近隣や友人など地域のつながりを活用し、情報を伝えたり聞いたりして共有します	6	13	6	0	
	今ある地域の資源を存分に活用します	6	13	6	0	
<p>《自由記載より》・片貝は伝統文化が深い地域。この組織を利用してさらに地域住民同士で助けあい支えあえる地域を作るシステムを作る必要がある ・できることがあれば協力したいが、外に言わない人も多い</p>						

《評価と社協の取組》個人レベルはもちろん、福祉会活動、ささえ～る片貝の活動を通じ、地域福祉活動が実施されていると評価する一方、いかに若い世代に対し関心を持ってもらい、活動参加につなげていくかが課題と考える方が多い結果となりました。福祉会活動にて子育てサロンの開催や世代間交流も盛んであり、また町内単位でも福祉活動助成金を活用した町内行事の開催も多く、世代間のつながりづくりに向社協としてはこれらの機会を通じけ取り組んでい

きたいと考えます。